

# 北海道赤平高等学校

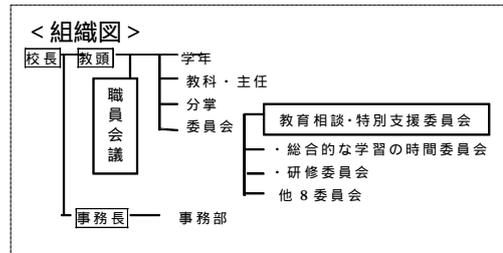
課程 全日制  
 学科 普通科  
 生徒数 54名

## 1 取組の特徴

健康・安全教育にかかる取組の中でコミュニケーションスキルの育成を行い、そのスキルを生徒会行事や学校行事等の活動の中で生かすよう教員が意識的に働きかける。

## 2 取組のねらい

- 1 人間関係形成、学級作りの手段として生かす。
- 2 自己理解・他者理解を深め、自己変容・自己成長を図るとともに、他者との間で思いやり、助け合い、支え合う人間関係を育む。
- 3 自他を尊重した上で、その場に応じた適切な表現方法を獲得し、生徒の自己実現・進路実現の基礎を築く。



## 3 取組の経過

4月	ソーシャルスキル「Hyper-QU」	10月	個別面談週間
5月	1年喫煙防止教室	11月	2年見学旅行、教員研修会
6月	1年宿泊研修（集団カウンセリング）	12月	Act-F.A.S.T講習会、冬季体育大会
7月	学校祭、保健講座、夏季体育大会 喫煙防止、薬物乱用防止啓発活動	1月	3年保健指導、教員研修会 3年生を送る会 子ども理解支援ツール「ほっと」3年第2回
8月	教員研修会 子ども理解支援ツール「ほっと」第1回	2月	卒業祝いメッセージ作り
9月	2年インターンシップ 薬物乱用防止教室	3月	1年保健指導、2年保健指導 教員研修会、教員研修会 リーダー研修会

## 4 取組の内容

### 1 保健講座

- (1) 日時 平成24年7月23日（月）
- (2) 講師 日本ピア・サポート学会全国理事  
北海道支部副支部長（事務局長）齋藤 敏子 氏
- (3) ねらい ピア・サポートの専門家によるプログラムを通して、より良い集団形成の視点から、協力について学ぶ。



- (4) 対象 全校生徒および教員
- (5) 内容 各種エクササイズ（挨拶、グループ作り、スクリブル、活用法、紙上相談）
- (6) 成果 異学年混合のグループを編成したことにより、新しい人間関係が生まれ、新鮮な気持ちで取り組むことができた。生徒は、「スクリブル」や「活用法」により互いの違いを確認し、「紙上相談」を通して協力するということ、具体的にわかりやすく体験できた。指導者のコーディネートにより、生徒がエクササイズに集中していく様子が見られ、働きかけのスキルアップの必要性を再確認した。

### 2 薬物乱用防止教室

- (1) 日時 平成24年10月16日（火）
- (2) 講師 旭川医科大学准教授 間瀬田 千香暁 氏
- (3) ねらい 薬物依存による心身への影響について、正しい知識を理解する。また、自分自身も巻き込まれてしまう可能性があることを理解し、誘惑から身を守る方法を生徒一人ひとり具体的に考え、行動につなげる。



## 4 取組の内容

- (4) 内 容 講話「依存性薬物の怖さを知ろう」(50分間)  
ワークショップ「やってみよう! ~どうやって断るか?」(50分間)  
・赤平市介護健康推進課健康づくり推進係と北海道滝川保健所の保健師の協力のもとで実施  
・シナリオ作成 教員による手本 ロールプレイ ワークシートの交換を通してそれぞれの考えを確認
- (5) 成 果 ねらいとしたアサーションのスキルアップのためのロールプレイに一人一人真剣に取り組むことができた。

### 3 3年保健指導

- (1) 日 時 平成25年1月16日(水)  
(2) 講 師 (株)ゆめかなビジネスコーチ 石川 尚子 氏  
(3) ねらい コーチングスキルを生かして、自己肯定感を高める。  
(4) 対 象 3年生生徒 20名  
(5) 内 容 コーチングスキルを生かした講話と演習  
(6) 成 果 言葉の大切さを知り、自分が使う言葉は常に自分にも向けられているということを意識するようになった。



### 4 教員研修会

- (1) 日 時 平成25年1月17日(木)  
(2) 講 師 北海道医療大学心理学科学部教授 富家 直明 氏  
(3) ねらい 生徒理解の深化  
(4) 対 象 全教員  
(5) 内 容 講話「コミュニケーション教育について」ワークショップ  
(6) 成 果 子ども理解支援ツール「ほっと」の結果の分析及び活用方法について理解を深めることができた。

## 5 次年度に向けて

### 1 成果

- (1) 中途退学者及び不登校生徒数の推移  
中途退学者：平成23年度 4名 平成24年度 2名  
不登校生徒数：平成23年度 1名 平成24年度 0名
- (2) その他の指標  
保健室利用者数：平成23年度 4,093名 平成24年度 3,029名  
一人当たりの欠席日数：平成23年度 23.2名 平成24年度 30.2名  
体験活動の参加者数：平成23年度 12名 平成24年度 11名
- (3) 「ほっと」及び学級適応検査等の結果の変化  
「ほっと」および「Hyper-QU」の結果をもとに校内研修を実施することにより、生徒理解を深めることができた。
- (4) 生徒の変容の姿  
学校全体で意図的・計画的にコミュニケーション能力を育む教育活動を取り入れ、異学年と取り組むプログラムを実施したことにより、お互いを尊重する態度が身に付いた。

### 2 課題

- (1) 早期から講師確保に努め、各種取組を計画的に実施する必要がある。  
(2) 次年度から募集停止となり、2、3年生のみの構成となることを踏まえ、コミュニケーション体験の拡大に取り組みたい。

### 3 次年度に向けて

- (1) 生徒が獲得したコミュニケーションスキルを日常の学校生活以外(学校行事や生徒会行事の準備活動の中)で生かせるよう、教員側が意識的に働きかける。  
(2) 教員のコミュニケーションスキルを高めるために、教員研修を計画的に実施し、生徒への指導に活用する。  
(3) 可能な限り地域の活動と連携して生徒が活動できる機会を設定し、コミュニケーション体験の拡大を図る。  
(4) コミュニケーションスキルの多様化と自己理解の深化、自己肯定感の底上げを図る。